

## 新旧訳読み比べ

2020年9月号

柴田耕太郎

ロアルド・ダール作品集の悪訳には翻訳業界人として心を痛めてきたが、ようやく田口俊樹の新訳が出始めた。新旧訳を比べることで、翻訳の楽しさ・難しさ・奥深さを味わっていたらこう。何より読者がたにとって、英文読解のよい教材となるものと思う。

旧訳が田村隆一、新訳が田口俊樹による『あなたに似た人』。いずれも早川書房刊。

### 『ねずみとりの男』 THE RATCATCHER

ゴードンとクロードの営むガソリンスタンドに、保健所からの指示でネズミ捕り男がやってくる。下水管に棲みつくネズミを駆除する秘密の方法を証<sup>あか</sup>して、二人を感心させる。続いて藁の山に潜むネズミを駆逐しようとするが、うまく行かない。バツが悪くなった男は、自分だけができるネズミを使った妙技を披露する。まずイタチとネズミを自分のシャツに入れて、格闘させるとイタチがネズミを食い殺した。つぎに自分がネズミに指一つ触れず、ネズミを殺すことができるという。ネズミの脚に細紐を結び、行動を制限したうえで、だんだん近づいてゆき、最後にパクッと…。

原文：p609

The man was lean and brown with a sharp face and two long sulphur-coloured teeth that protruded from the upper jaw, overlapping the lower lip, pressing it inward.

旧訳：p389

その男は、するどい顔つきをしていて、やせこけて、陽にやけていた。上顎から硫黄色の歯がとび出していて、下唇とぶつかりあい、それを中の方へ押しこんでしまっている。

新訳：p127

男は痩せていて褐色の肌をしていた。線の鋭い顔をしており、上顎から突き出た硫黄色の二本の長い歯が下唇にかぶさり、下唇を内側に押しつけていた。

意見：

sharp は意味が広く翻訳者泣かせ。「するどい」△(旧訳)では刑事とかやくごを連想してしまう。「線の鋭い」△(新訳)は「顔」とのコロケーションが悪い。「角ばった」だとゲタ顔を想像してしまう。「鋭い目鼻立ち」が無難か。

lean は、悪い意味ではない「身が引き締まっていること」。「やせこけて」×(旧訳)、「痩せていて」△(新訳)。「細身で」としてはどうか。

原文：p611

The accent was similar to Claud's, the broad soft accent of the Buckinghamshire

countryside, but his voice was more throaty, the words more fruity in his mouth.

**旧訳：p393**

そのアクセントは、クラウドのそれとよく似ていた。バッキンガムシャーの一地方にある、あの幅のひろい、やわらかなアクセントだ。でも、彼の声はもっと野太く、口の中で、もっとうるおいをふかめているかのようだった。

**新訳：p132**

訛りはクラウドの訛り—開けっぴろげで柔らかなバッキンガムシャーの田舎の訛り—と変わらなかったが、声はもっと野太く、ことばも口の中でもっとよく響いた。

**意見：**

この broad は「訛りの強い」。例：speak English with a broad German accent ひどいドイツ訛りの英語をしゃべる。「幅のひろい」×(旧訳)、「開けっぴろげな」△(新訳)。「癖のある」でどうか。

soft は「軟音の」(c が s、g が dj のように発音される)ととるのがよいだろう。訳はこのままでよい。

fruity は多義だがここでは「柔らかくて豊かで美しい；太い低い；朗々とした」。「うるおいをふかめている」×(旧訳)、「よく響いた」○(新訳)。「よく響く」としてはどうか。

**原文：p619**

‘That’s what they makes lickerish out of,’ he said.

**旧訳：p411**

「味をうまくするんだよ、こいつは」と彼は言った、

**新訳：p150**

「こいつが旨味になるんだよな」と男は言った。

**意見：**

ここだけだとどちらも同じようだが、「ネズミの血がチョコレートの隠し味になる」というのが続くところから、説得性で新訳がベター。

